NIHON SEN-I SHIMBUN

日本繊維新聞

2010年（平成22年） 7月29日 木曜日

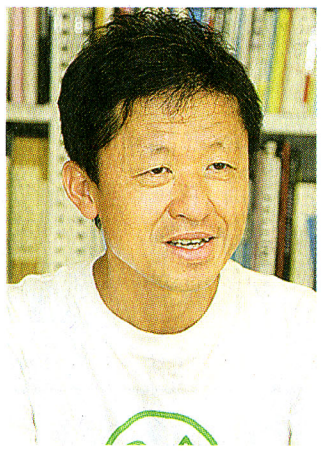
NISSEN www.nissenmedia.com 紙面へのご意見ご感想は nissen-info@nissenmedia.com

マメさんのデザイン人探訪 ▽2△

デザインが奇跡を起こす

メリー プロジェクト代表 水谷 孝次氏

覚えているだろうか。北京オリンピックの開会式セレモニーのクライマックスで会場全体を埋め尽くした世界の子供たちの笑顔の写真を。今回のデザイン人、水谷孝次氏の提唱する笑顔のコミュニケーションデザイン「ＭＥＲＲＹ　ＰＲＯＪＥＣＴ」からの提供である。日本を代表するアートディレクターの商業デザインからソーシャルデザインへの転向。水谷氏が目指すこれからのソーシャルデザインについて話を聞いた。



みずたに　こうじ

1951年名古屋市生まれ。77年日本デザインセンター入社、83年水谷事務所設立。80年東京ＡＤＣ賞を皮切りに、ＪＡＧＤＡ新人賞、ＮＹＡＤＯ国際展・金賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展金賞・特別賞、ブルーノ国際グラフィックデザインビエンナーレ銅賞・特別賞、コロラド国際ポスター招待展最高賞など、国内外のグラフィックデザイン界で数々の賞を受賞。「笑顔は世界共通のコミュニケーション」を合言葉に99年から「ＭＥＲＲＹ　ＰＲＯＪＥＣＴ」を開始。05年には愛知万博「愛・地球広場」にて「ＭＥＲＲＹＥＸＰＯ」を展開。08年北京オリンピック開会式、六本木ヒルズで「ＭＥＲＲＹ　ＧＡＲＤＥＮ！」を展開。これらの活動に対して第50回・第52回グッドデザイン賞、第14回桑沢デザインオブザイヤー賞、第１回エコ・アート大賞エコ・コミュニケーション賞、第１回キッズデザイン賞などを受賞。

――売れっ子のアートディレクターだった水谷さんが「ＭＥＲＲＹ　ＰＲＯＪＥＣＴ」を始めたいきさつは。

「広告を手掛けていて、寝る間のないほど忙しく仕事をこなしていた時、自分の中で『お金の感覚も、仕事の内容もすべておかしい！』と冷静に自分を見詰めているもう１人の自分がいました。ちょうど、バブル全盛のころで、仕事は次々に入ってきて、いわゆる〝虚〟の世界に良くも悪くも巻き込まれていました」

「『自分のやるべきことは何？』『デザインとは何？』『デザインで社会のためになることをやるのではなかったか？』『心を伝えたくてデザインに進んだのではなかったか？』など、疑問が次々にわいてきていました」

――国内外のグラフィックデザイン界で素晴らしい賞を次々に受賞し、トップアートディレクターの名を欲しいままにしていたころでしたね。

「そのころ、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの商業部門で上位に入選したのは、ほとんど日本の作品でクオリティーは高かったのですが、メッセージ性は東側諸国の粗末な手書きのポスターの方にありました。日本人のバブリーな感じがおかしいと感じました。広告で名前を変えただけで商品を売り切ったり、代理店が金を奪い合ったりで虚と虚の出し合い――。米国のある有名歌手と仕事をしたときのいきさつに人間が愚かに思え、『お金も賞もいらない』『人に喜ばれることをしたい』『自分が納得できる仕事がしたい』と一気に日ごろの思いが噴出したのです。それで92年に事務所を閉じて、残りたいと言った女の子と２人で出直しました」

水谷氏の事務所屋上にて

「広告の仕事はモノ売り上手でなければやっていけません。代理店の中でモノを売ることを経験しましたが、ダメージを受け、絶望して仕事を休んだあとで、デザインする喜びがよみがえってきました。そんな時つくった神戸震災復興のポスターが、第37回全国カタログポスター展・工業技術院長賞を受賞し、田中一光さんが激賞してくれました。95年のことです。その時、社会的なポスターもやっていかなければと痛感したのです」

「パルコの写楽生誕200年記念で制作したポスターが、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレで文化・アート部門のグランプリを受賞しました。かつて日本人が定席としていた商業部門をロシア人が受賞し、欧米人の定席であった文化・アート部門を日本人がとった。この10年の変化を実感。〝21世紀は笑顔のコミュニケーションの時代〟と感じ、99年にＭＥＲＲＹをスタートしました。そして２０００年の正月に『ＭＥＲＲＹ　ＡＴ　ＬＡＦＯＲＥＴ２０００』を開催し、大反響を呼びました」

――デザインの仕事とは何だと思われますか。

「人を幸せにすること、笑顔にすることだと思います。神戸大震災やニューヨーク9.11後に笑顔の写真を撮りに入り、現地で写真展をした時、大勢の人に感謝されました。広告をしていたころにはなかったことで『自分のやりたいことはこれだったのか！』と気づかされました。社会的、環境的に〝負〟のあるところでＭＥＲＲＹをやることにしました。自分の素直な心、気持ちを持っていけば、受け入れてもらえます。こちらの鏡がクリアであれば、曇りのない笑顔の写真が撮れます。六本木ヒルズでニューヨークと同時にセッションをしたり、愛知万博、『愛・地球広場』でＭＥＲＲＹ　ＥＸＰＯを手掛け、フィンランド、モスクワ、パリ、エジプトと世界中に出掛けていきました。ケニアのナイロビで少女から『あなたがＭｅｒｒｙよ！』と言われたことを中西元男さんに話しましたら、『それがデザイン』と言われました。そういうことでデザインすれば良いのかと、ふに落ちました」

――今後、デザインしてみたいことは。

「68億人の笑顔をデザインすることです。思いや純粋なものが人を動かす――これこそがデザインです。笑顔で平和のメッセージを世界に伝道し、多くの人を元気にしたい。デザインで奇跡を起こしたい。今後、広島や長崎でもＭＥＲＲＹ　ＰＲＯＪＥＣＴをやりたいと思っています」

あとがき

地球規模で１つ１つのコミュニケーションを大切に、環境をデザインし、平和をデザインしていくこと。災害や危機、病で苦しむ人々を少しでもデザインの力で元気にしたい。地球全体が笑顔でいっぱいになること。ブッタの言葉「和顔愛語」、これが水谷氏のソーシャルデザインの基本だ。水谷孝次著「デザインが奇跡を起こす」（ＰＨＰ研究所）ぜひ読んでいただきたい１冊である。

大豆生田守（蝶理ＭＯＤＡクリエイティブディレクター）